

発行：“人間と性”教育研究協議会/発行責任者：北山ひと美
〒151-0071 東京都渋谷区本町1-7-16 初台ハイツ1006号
https://www.seikyokyo.org Tel 03 (3379) 7556

視 点

出前セミナーから出発した
障がい児・者の「性」を学ぶ会
《ゆいの会》

代表幹事の水野哲夫さんが静岡の夏期セミナーシンポジウムで言われたように「学ぶことは実践」なら、私の実践は1993年頃からだったと思います。あちこちから取り寄せた資料、どこから手を付けたら良いの？一部分しか見えない！そのような時に出会ったのが、故山本直英さんの著書『こころとからだの主人公に』でした。“あ～そうなんだ”と子どもたちの様子を思い浮かべながら、発見の連続。学びながら“なるほどそうだね”と共感し、夢中で読み漁りました。じゃあ、どんな風に皆さん実践してるの？同僚2人と授業参観に伺ったのが東京の永野佑子さんの支援学級。授業は二次性徴のからだの変化でした。子どもたちの活発な発言に明るく応える永野さん。からだのことを知りたいという子どもたちの要求に応えることが大切なんだと実感しました。そして、今では考えられませんが、学校給食と一緒にいただいたのです。メニューは全く覚えていないのに、「東京の学校はこんな給食が出るんだ！」と妙な田舎者意識が自分でもおかしかったのを覚えています。他の学校も参観して、いよいよ私たちの取り組みの始まりでした。

特別支援学校の寄宿舎は、学校や家庭とは違う第3の居場所での集団生活ですが、プライベートな時間もたくさんあります。特に入浴はリラクセスの時間であるとともに部位や洗い方を伝える絶好の場。毎日の生活の中で、人権を大切にしたい排泄や着替えの介助。“わかる力”でグループ分けをした集団での学び。これらが軌道に乗ったのは1998年頃。

2001年の記録には、すでに「快」を取り入れ「遊びを通して五感で『快』を感じることで、情緒の安定を図り、豊かな気持ちを育むこと」とありました。七生の実践を知らなかった私たちでしたが、「快」を取り入れた若者たちの感性はすごい！もう一つは「さいころゲーム」です。グループとして活動できるようにはじめた「さいころゲーム」。これも若者たちの発案でした。この実践報告は『季刊セクシュアリティ』60号に冬埜陽向というペンネームで掲載され、今では全国的に広まっています。今思うと若者たちの発想力は素晴らしかった！このような仲間と性教育が出来たこと

を誇りに思っています。これらを2002年の全国夏期セミナー広島大会の分科会で発表しました。

その後、障害児・者サークルの出前セミナーを利用して、2008年11月に福井の地で初めて障害児・者の性教育セミナーを実施しました。「ユーアイふくい」という施設の定員130名のホールがほぼ満席の中で、永野佑子さんの講演、午後からは伊藤修毅さん、渡邊武子さんも参加しての交流会を行いました。永野さんの講演は参加者にとって「目からうろこ」だったようです。子どもたちの性的発達に戸惑いしかなかった、また禁止することしかできなかった保護者や支援者の方々から、「相談する場や学ぶところがほしい」との要望が多くありました。

出前セミナーから1か月後の12月、雪の福井。スタッフ5人で喫茶店にて「学びの場をつくる？」の話し合い。「やろうっさ！」（福井弁）障がい児・者の「性」を学ぶ会《ゆいの会》が誕生。これからの活動に胸を弾ませた私たち。2009年2月から活動開始。2か月に1回の学習会や相談会。相談事例から当事者の男性や女性も参加し、楽しくも真剣に話をしたのを思い出します。2017年からは青年の性のセミナー“まなぼう！はなそう！”を開催。今年も多くの子が参加します。そして今年の9月8日、第5回支援者セミナーは、念願の対面形式で開催することができました。交流会では、参加者の発言から《ゆいの会》が地道に蒔いてきた性教育の種が、少し芽を出し始めたのかなとんだか頼もしく、嬉しく感じました。さらに芽が膨らんでほしいと強く願っています。何事も出発は勢いで「やろうっさ！」。でも、継続することの大切さや大変さを実感しています。《ゆいの会》の若者たちが中心に活動できるまで、もう少し「頑張ろうっさ」皆さんとともに。



東みすゑ

(障がい児・者の『性』を学ぶ会《ゆいの会》代表 ふくいサークル)